

はしもとよしや  
橋本善八 新館長インタビュー

4月に世田谷美術館館長に就任されました橋本善八さんにお話を伺いました。

◆ このたびは館長ご就任おめでとうございます。橋本さんは、世田谷美術館を立ち上げたときから関わっていらっしゃるということですが……。

私の父が学生時代に、彫刻家の向井良吉先生(画家・向井潤吉先生の弟)が創業された七彩というマネキン制作の会社で色付けなどのアルバイトをしていたようで、以降、二人は交流を続けていました。時折、私は父の使いで良吉先生のアトリエを訪ねていました。

ある日、先生から世田谷美術館の開設準備室で、学芸員資格をもっている人を募集しているから受けてみたらと、アドバイスをもらいました。何となく会社も面白くないことがあり、アルバイトとして勤め始めました。その後まもなく、のちに副館長となる勅使河原純さんが上司として着任。主に区内在住作家の作品収集事業で、日々奔走しました。

◆これまで世田谷美術館でなさったことで印象に残っていることはどんなことでしょう。

世田谷区には関東大震災以降、美術家もたくさん住むようになりました。勅使河原さんと作家のアトリエや画廊を訪問し、作品を選ぶ毎日。準備室ではアルバイトに名刺はつくれないというので、自前でテキトウなものをつくってね(笑)。初代館長の大島清次館長からは、「できるだけ高いところから飛べ」、「走りながら考えろ」と檄が飛び、「働き方改革」なんて言葉はなかった時代だから、ガムシャラという感じでした。その時に出会った作家、そして作品は、ものすごい数のぼりますが、今でも言葉のやり取りや、アトリエ風景は脳裡に残っています。しばらくして、非常勤職員採用、次は総合職員採用試験を経て、やっと名刺もつくってもらってね(笑)。

それから、勅使河原さんにくつついで担当した最初の企画展「向井潤吉展」(1986)は、もう抜け殻になるほど頑張りました。とにかくノウハウがないし、藁にも縋る思いでした。それと、1993年7月に開館した分館の向井潤吉アトリエ館の開設を担当しました。本館の仲間から外れ、約3ヶ月で開館させました。準備期間は1日の休みもなかった。でも、私にとって、これは大きな気づきの連続。小さくても大きくても、業務内容は変わらないし、小さい美術館はお客様との距離が近い。じかに声を聴くこともできた。その後、清川泰次記念ギャラリー(2003)、宮本三郎記念美術館(2004)の開設も担当しました。

最近では、新型コロナウイルス感染症の中での美術館運営。すでに副館長職でしたから、館内外の調整に追われ、心身ともに疲弊しました。得体の知れない怪物と格闘するような気分で、薄氷を履むが如くの日々。怖かったです。結局、ああした緊急時を乗り切るのは、チームの力こそが基盤だと思いました。

自身が学芸員としての展開を感じたのは、「企業と美術シリーズ」の「暮らしと美術と高島屋展」(2013)、「東宝スタジオ展」(2014)、そして「竹中工務店400年の夢」(2016)を担当したこと。当シリーズは酒井館長の発案で、美術の中の美術から踏み出し、周縁領域の世界を照らすという目論見です。異業種、異文化を美術館屋の視点で掘り下げるという仕事は刺激的で、大いに感化されました。今は秋に開催予定の「東急暮らしと街の文化」を準備中です。

◆ これから世田谷美術館をどのように運営していくたいですか。

当館はすでに40年近い活動の蓄積があります。それは経験値だけでなく、内外にわたる人材、人脈、そして信用など底知れないものです。

都心の美術館は、賑やかな付加価値がたくさんありますが、当館の魅力は何と言っても砧公園の環境。さらに当館の設計者・内井昭蔵氏が試みた「生活空間」がいきづく、この建物です。当館の開館記念展は



「芸術と素朴」。原始美術から現代美術、そして民族美術なども包括したもので、これが源泉となって当館の事業には、「日常」や「暮らし」そして「自然」への眼差しが浸透してきたと感じます。

一昨年くらいから、酒井館長と「ファンベース」という言葉をやりとりしていました。例えば飲食商品でも、町の居酒屋でも、2割のコアなファンが売上の8割を支えているという統計上の数字。今後、世田美のファンを広げていくためには、事業内容の充実とホスピタリティが欠かせません。人が集い、人の精神的な成長や健康に寄与できる美術館でありたいと思います。

◆ ご趣味は……。

仲間と音楽をやっています。ヴァイオリンは自身の限界を痛感し挫折。今はドラムやパーカッションを担当。あとはボーカルの指導者として、小さな友達がたくさんいます。それと料理ですね。毎日、お弁当も手づくりしています。これは趣味というより気晴らしですが、年に2、3回は愛車でロングドライブしています。

◆ 最後に、友の会について思っていらっしゃることやメッセージを。

以前は大きな展覧会の時ですと、友の会の皆さんのが自主的にエントランスホールにカウンターを出され、お客様のご案内をしていただき、友の会のご紹介をされていました。その姿は頼もしく、館との一体感を強く感じました。

今後、ますます少子高齢化社会が進むと、こうした任意団体を維持していくことは大変かもしれません、私どもも大いに協力をさせていただきたいと思っています。そして、バス旅行や見学会などにも職員が同行し、会員の皆様と交流し、相互理解を深めることができればと思います。そうすることで仲間意識ができますし、協力し合って地域の文化を支えていく仲間として、もっと関係が深まると思います。

今、世界では武力衝突や甚大な自然災害が発生しています。平凡で黙々としたものでも、落ち着きのある日常こそが、人間にとて大切な環境ですし、その中で、静かに少しずつ地域文化が醸成され、外部との交流が育まれていくのだと思います。目にはみえない、人の成長に寄与するために、私たちは世田美に集い、出会っているのだと思います。友の会の皆さんには、これからもご支援、ご協力をいただきたく思います。そしてたくさんの方々に、世田美には素敵なセンターがいるねって褒めてもらえるよう、と一緒に活動してまいりましょう。

(友の会広報部)

世田谷美術館・友の会共催  
「美術家たちの沿線物語」展  
関連レクチャー  
「彫刻への案内(チエローネ)  
柳原義達さんのことなど」  
講師:酒井忠康  
世田谷美術館 前館長

3月23日(土) 参加者99名

### 彫刻への豊潤な チエローネを味わう

この酒井忠康さんのレクチャーは、世田谷美術館館長としての最終講義でしたが、日常の一齣のように何の特別感もなく行われたのはご本人のご意向だったようで、お人柄を感じました。

「今の自分が在るのは、この『おっかない人』のおかげ」と、先ずスクリーンに映し出されたのは土方定一さんのお顔でした。神奈川県立近代美術館のあった鎌倉から始まった沿線物語は、柳原義達、飯田善國、舟越桂、若林奮、本郷新、佐藤忠良、向井良吉、土谷武、ダニ・カラヴァンなど、次から次へと親交の深い作家やその作品の写真とともに、様々な興味尽きない逸話が語られていました。

柳原義達さんに描いてもらった牛のデッサンのこと、飯田善國さんがローマで土方定一さんから受けた酷評のこと、宇部の野外彫刻展のこと、本郷新さんのアトリエでの彫刻選考会のこと、レヴィ=ストロースのブリコラージュのことなど、とにかく盛り沢山でした。お話の内容は、作品論というよりは、作品を観たい、あるいはもっと作家を知りたいと思われる、まさに見事なチエローネでした。

これまでの友の会へのご厚情に改めて感謝申し上げますとともに、ご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。  
(友の会広報部)



### 令和6年度 世田谷美術館友の会総会

5月12日(日)  
参加者42名 委任状220名  
計262名(会員数533名)

### 総会を終えて

令和6年度世田谷美術館友の会総会は、5月12日、規約に則り司会者の開会宣言で始まり、多数の会員の参加、委任状も得て開催されました。

庄司マサエ代表世話人の新しい企画も含めての実践で友の会を盛り上げ、ますます充実したものにしたいとの挨拶がありました。

世田谷美術館設立時からの学芸員として大きく寄与された橋本善八新館長から慈愛溢れるご挨拶をいただきました。「友の会は幾多の行事や講座を開いて会員や区民の文化の向上を図り美術館に協力し、鑑賞リーダーとともに車の両輪として美術館を支えている。友の会のない美術館は考えられない。今から手と手を携えて世田谷区民のより一層の文化の深化向上に努めて行こう」と心温まるお言葉をいただきました。

美術館幹部職員の紹介の後、議事に入りました。世話人会で提案したそれぞれの議事について慎重に審議の上満場一致で賛同いただきました。

総会終了後に展示中の「民藝」展について村上由美学芸部長にご懇切な解説をいただき、さらに知見を深める糧となり、それぞれ展示室へ向かいました。  
(友の会総務部)



### 油彩講座

講師:早矢仕素子

1月12日(金)~3月1日(金)全8回 参加者24名

### 油彩講座に参加して

藤崎江美

授業初日(1月初旬)。木箱に入った新品の絵の具を持ち、緊張しながら創作室に入りました。油絵の知識がない私は、先生のアドバイスを頼りに作品に取り掛かりました。絵の具・オイルの知識もなく、翌日から画材屋通いの日々が始まりました。

人生初の静物画は、紙袋が机の上に複数おいてあり、文具店のロゴを描くものでした。少し描き進めることができてもキャンバスが乾かず、イメージした色の混色も失敗の連続でした。しかし、次第に描けるようになると楽しくなりました。アレンジで、キャンバス上部に大きな字で「能登半島ファイト!」、更に文房具店のロゴを、急遽「募金箱」に変更しました。最終日までに仕上がりませんでしたが、自分の表現が出来た事は納得いきました。

テーマから逸脱した作品にご指導下さった早矢仕素子先生に感謝致します。重ねて描く技術、道具の管理、緻密な作業はどれも貴重な経験になりました。皆様にも是非チャレンジして欲しいです。



### 世田谷美術館・友の会共催 解説・鑑賞会

#### 「美術家たちの沿線物語」展

#### 小田急線篇 京王線・井の頭線篇

解説:池尻豪介 学芸員

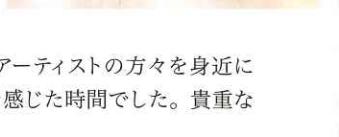
3月17日(日) 参加者60名

### アーティストの方々との 「つながり」

柳田琴江

春の陽気真っ盛りというお天気のもと、区内を通る鉄道のお話から解説が始まりました。世田谷区は、通っている私鉄が交差する多さで珍しい場所なのだそうです。初めて知った面白い事実でした。同時に、未だ実現していないエイトライナーが区内を通る日は来るのか?! という思いがよぎりました。

館内の展示の写真とともに解説は進んで、区内の京王井の頭線、小田急線の駅周辺に在住したアーティストとエピソードや作品が丁寧に紹介されました。馴染みある数々の駅名とは反対に、初めて知るアーティストの方々の多様な活動のお話があり、新鮮さ、好奇心、今回の企画展ならではの楽しさを感じつつお聞きしました。なぜか「つながり」という言葉も浮かんできました。私も同じ区内に在住し生活しているという親近感からでしょうか。アーティストの方々を身近に感じる不思議な感覚、じんわりあたたかさを感じた時間でした。貴重な機会をありがとうございました。



## 第36回 アート散歩 文化学園服飾博物館 ～東京オペラシティ アートギャラリー

3月15日(金) 参加者21名

### ワクワクの半日

武川希美子

春の訪れを感じる絶好のお散歩日和に参加した新宿から初台へのアート散歩。

快晴に恵まれ朝から気分は上々(笑)。お散歩の途中では、いつもとは全く違う角度から眺めた都庁建物とその風景の本当に美しいこと!ここはヨーロッパかと思わずパチリと写真に収めたほどです。

まず最初は、文化学園服飾博物館の展示を鑑賞。衣服の形が「ながい」「おおきい」「まるい」「たかい」などの特徴毎に紹介され、なぜその形になったのかの意味を知り、思いもよらないデザインと発想に感心しました。さらに、東京オペラシティアートギャラリーでは、学芸員さんからの丁寧な説明を受けた後、「ガラスの器と静物画」展を鑑賞。ガラス作家と画家との言葉のコラボレーションから生まれたガラス作品と画家たちによる親密な絵画とモノクローム写真は、不思議な感覚に興味を引かれるものでした。それぞれの作品には、独自の世界観や技術が詰まっており、心をくすぐる魅力がありました。

このアート散歩を通じて、新たな発見や感動をたくさん得ることができ、ワクワクする良い半日を過ごすことができました。ありがとうございました。皆さんも参加されてみてはいかがでしょうか。



## 世田谷美術館・友の会共催

### 世田谷美術館さくら祭

3月30日(土)・31日(日)



2024年の3月は寒い日が続き、当日は桜の花の見られない「さくら祭」となりましたが、この日を待ち構えたような好天に恵まれ盛大に開催されました。

エントランス広場には恒例の世田谷美術館美術大学卒業生や友の会によるフリーマーケット、群馬県川場村から物産店、美術館レストラン「ル・ジャルダン」からホットドックとビールなどの販売があり多くの人で賑わいました。

今回は開催中の展覧会の関連で小田急電鉄にご協力いただき、小田急電鉄子育てキャラクター「もころん」が大活躍してくれ、ワークショップ、撮影会、輪投げなどで子どもたちと楽しみました。

またプラスチック容器を楽器に変身させ、できた楽器でギターとコラボする「ライブ＆ワークショップ」やスタンプラリーなど沢山のイベントがあり家族で楽しめる2日間となりました。

友の会のフリーマーケットでの売り上げは61,250円となり友の会の基金に組み入れました。物品提供やボランティアで参加して下さった皆様、ご協力ありがとうございました。

(友の会広報部)

## アートライブラリー通信

### 第10回 資料からみる新館長の足跡

今号の橋本新館長のインタビューをお読みになりましたか? ここではアートライブラリーでご覧いただける資料を通して新館長の足跡に迫ってみます。

まずは『世田谷美術館紀要』7号(2004年)に収録されている「世田谷美術館における分館事業」では、各分館の立ち上げに関わった学芸員として詳細な報告があり、それぞれの館の特色などを知ることができます。また、編者として手掛けた『草屋根と絵筆:画家 向井潤吉のエッセイ』(国書刊行会、2018年)は、洋画家・向井潤吉が“民家の画家”として全国各地に赴いた際の回想やエッセイをまとめたものです。

このほか、担当した各展覧会図録には丹念な調査研究を基にした論考が収録されています。文学と美術の出会いを取り上げた『パラオ——ふたつの人生 鬼才・中島敦と日本のゴーギヤン・土方久功』(2007年)。当館の設計者・内井昭蔵をフィーチャーした『内井昭蔵の思想と建築』(2009年)。当館独自の企画である“企業と美術”シリーズ『「暮らしと美術と高島屋」展』(2013年)、『竹中工務店400年の夢』(2016年)など。

資料から浮かび上がってくる、館と共に歩んできた新館長の足跡を知っていただければと思います。(世田谷美術館学芸部 司書/須藤美麗)



## 美術館人事異動

4月1日付け異動がありました。  
よろしくお願いします。

副館長  
総務部長事務取扱  
安間 信雄



## これからの事業について

- 木彫刻講座 6月7日～ 8月2日(金) 全9回
- 水墨画講座 6月26日～ 8月7日(水) 全7回
- デッサン講座 8月14日～ 9月4日(水) 全4回
- 銅版画講座 9月6日～ 10月11日(金) 全6回
- 木口木版画講座 9月4日～ 10月16日(水) 全7回
- 油彩講座 1月17日～ 3月7日(金) 全8回
- 美術講座 予定
- 美術館めぐり 予定
- アート散歩 予定
- 解説・鑑賞会 企画展・ミュージアムコレクション展ごとに予定

\* 2024年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

## 世田谷美術館友の会に入会しませんか!

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「藝術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポートー・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や会員手続きは下記へ。

## お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。

Tel. 03-3416-0607

<https://setabi-tomonokai.jp/>

